

## ⑭ 細胞相互封入

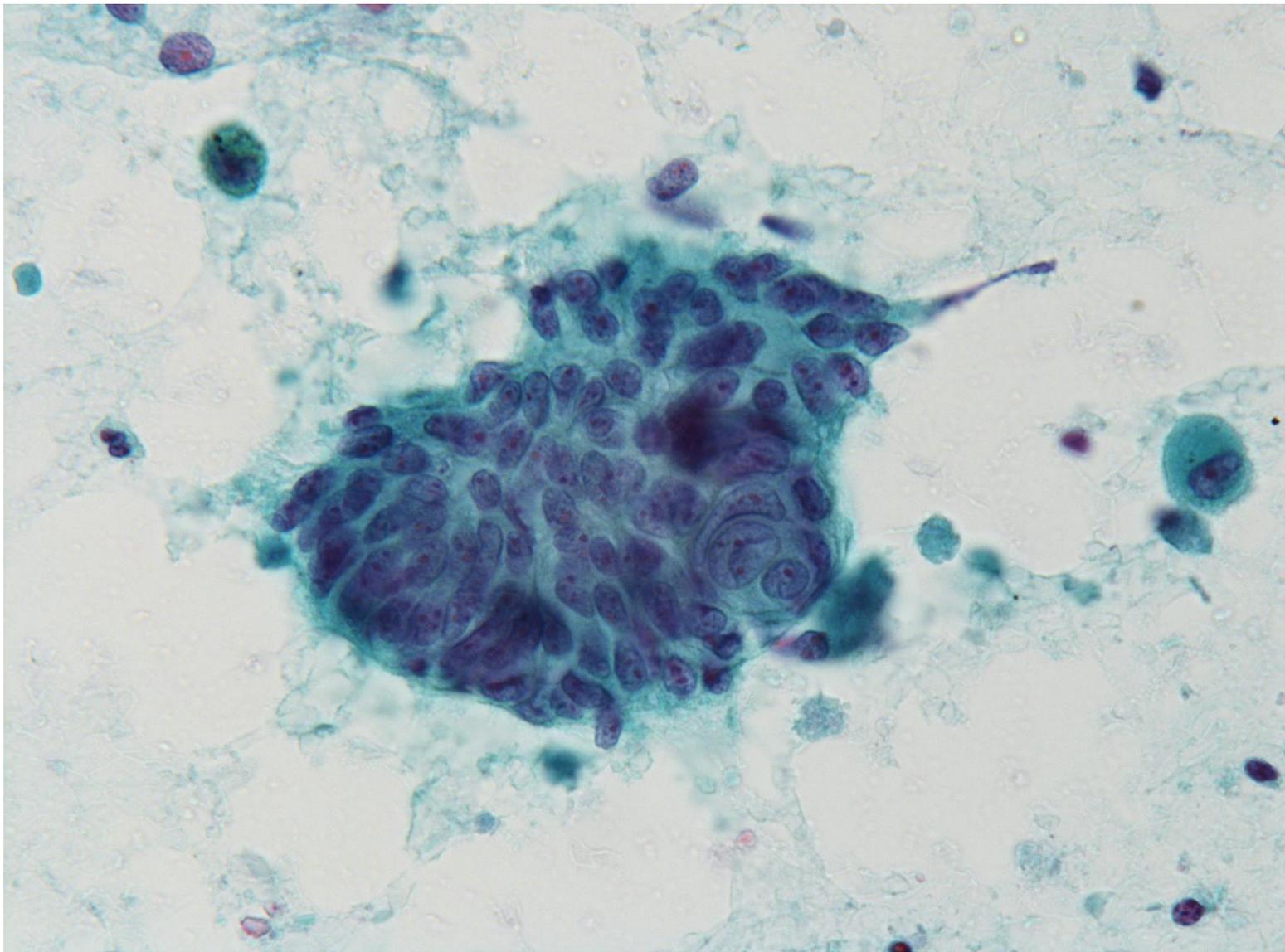
### ・細胞学的定義

一つの腫瘍細胞がもう一つの腫瘍細胞を貪食している、あるいは包み込んだ様に結合している。

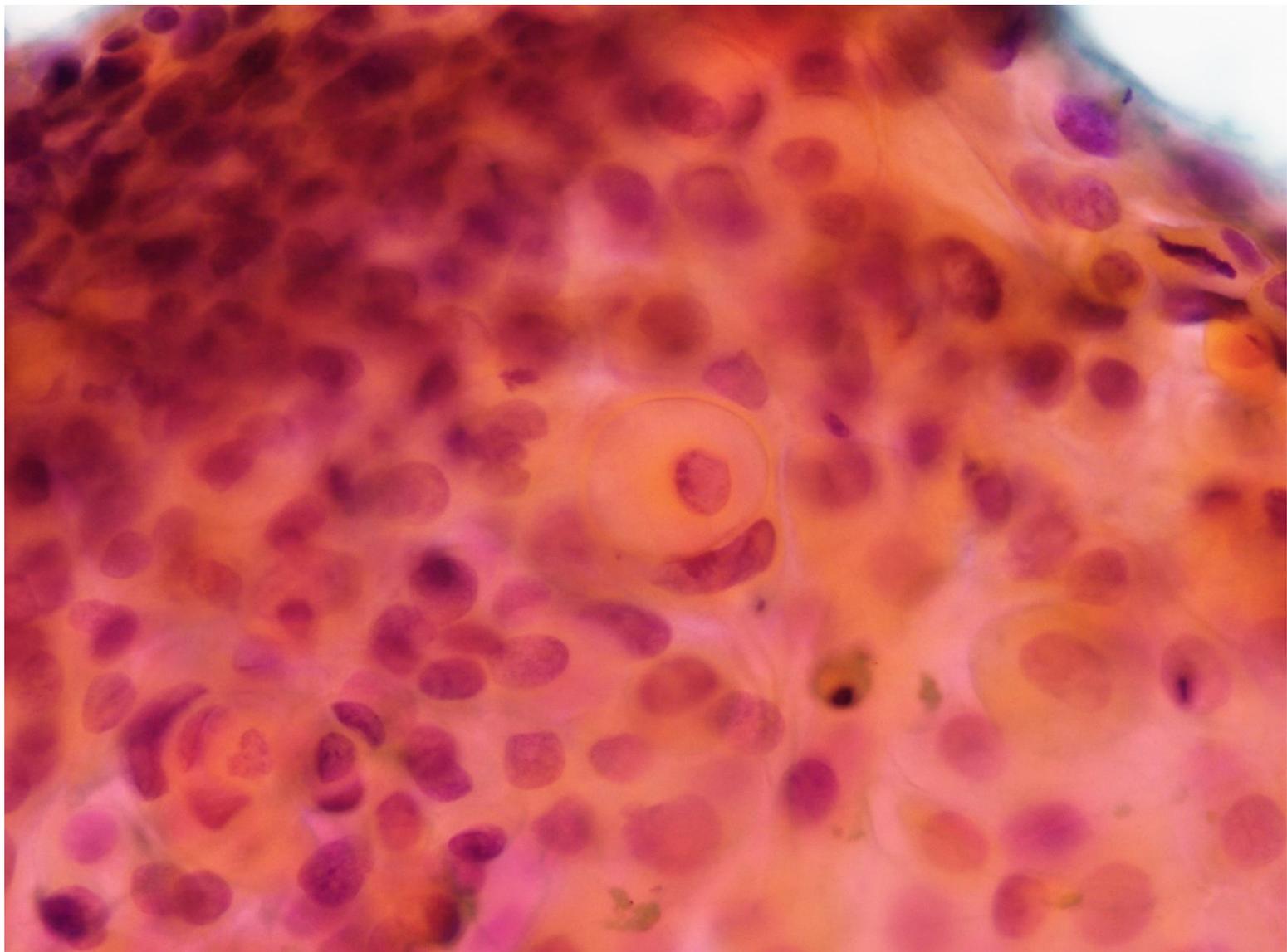
### ・組織型の推定と補足

組織学的に扁平上皮癌だけではなく、小細胞癌や大細胞神経内分泌癌でも認められる。また、腺癌でもまれにみられることがある。

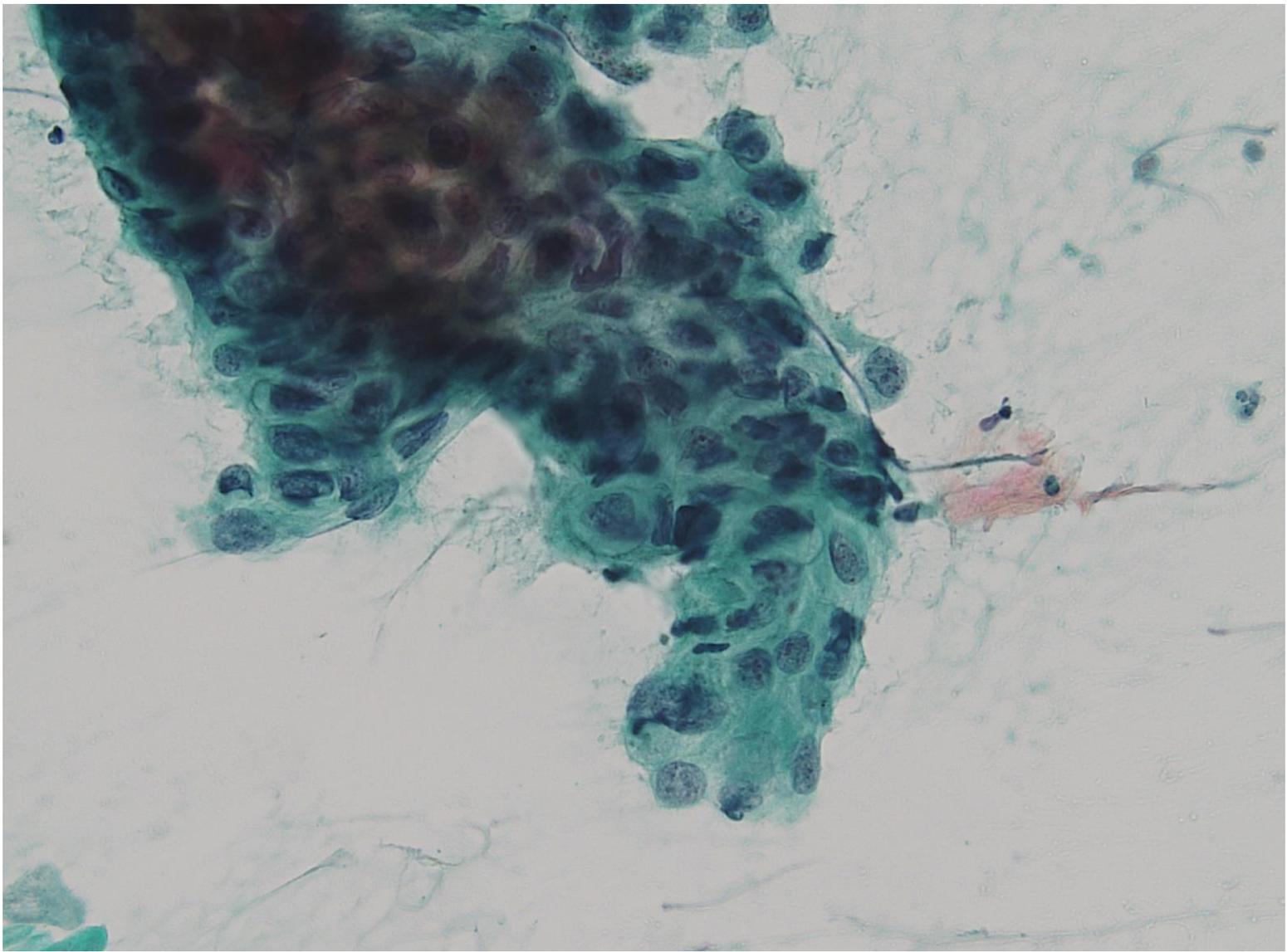
細胞学的に相互封入像は細胞が貪食しているようにみえる。一方、相互圧排像は1個の腫瘍細胞が1個の腫瘍細胞を抱合する像で(貪食像ではない)、限られた容積内で密な細胞増殖による圧排像である。この相互圧排像は、悪性細胞でみられるが、良性や肉腫でもまれに認める。特に、小細胞癌や大細胞神経内分泌癌では特徴的な所見である。



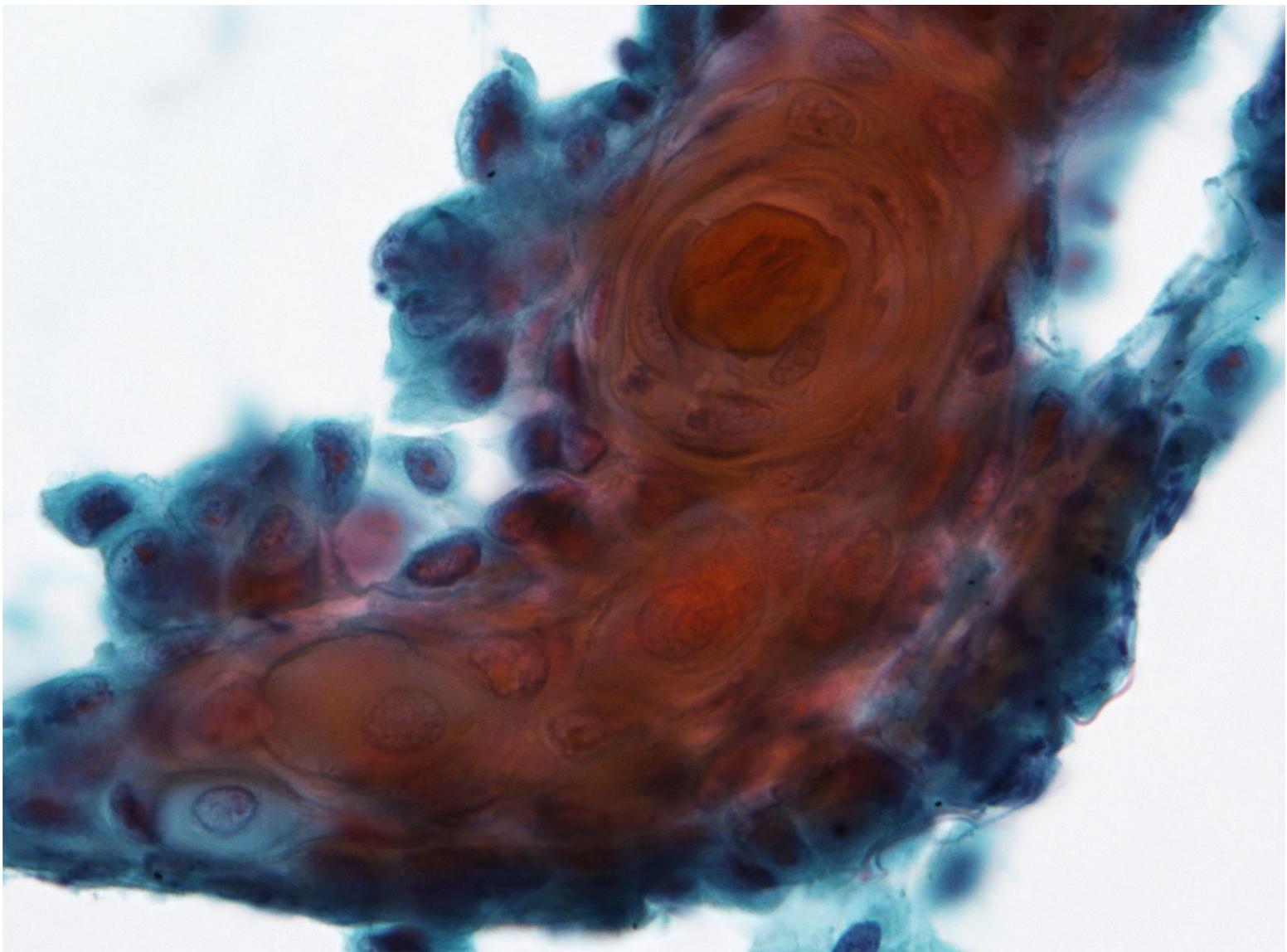
**定型例** ⑭-1 (擦過、扁平上皮癌、用語の一致率90%) : 中型細胞集塊の右端の一部には、相互封入像が認められる。



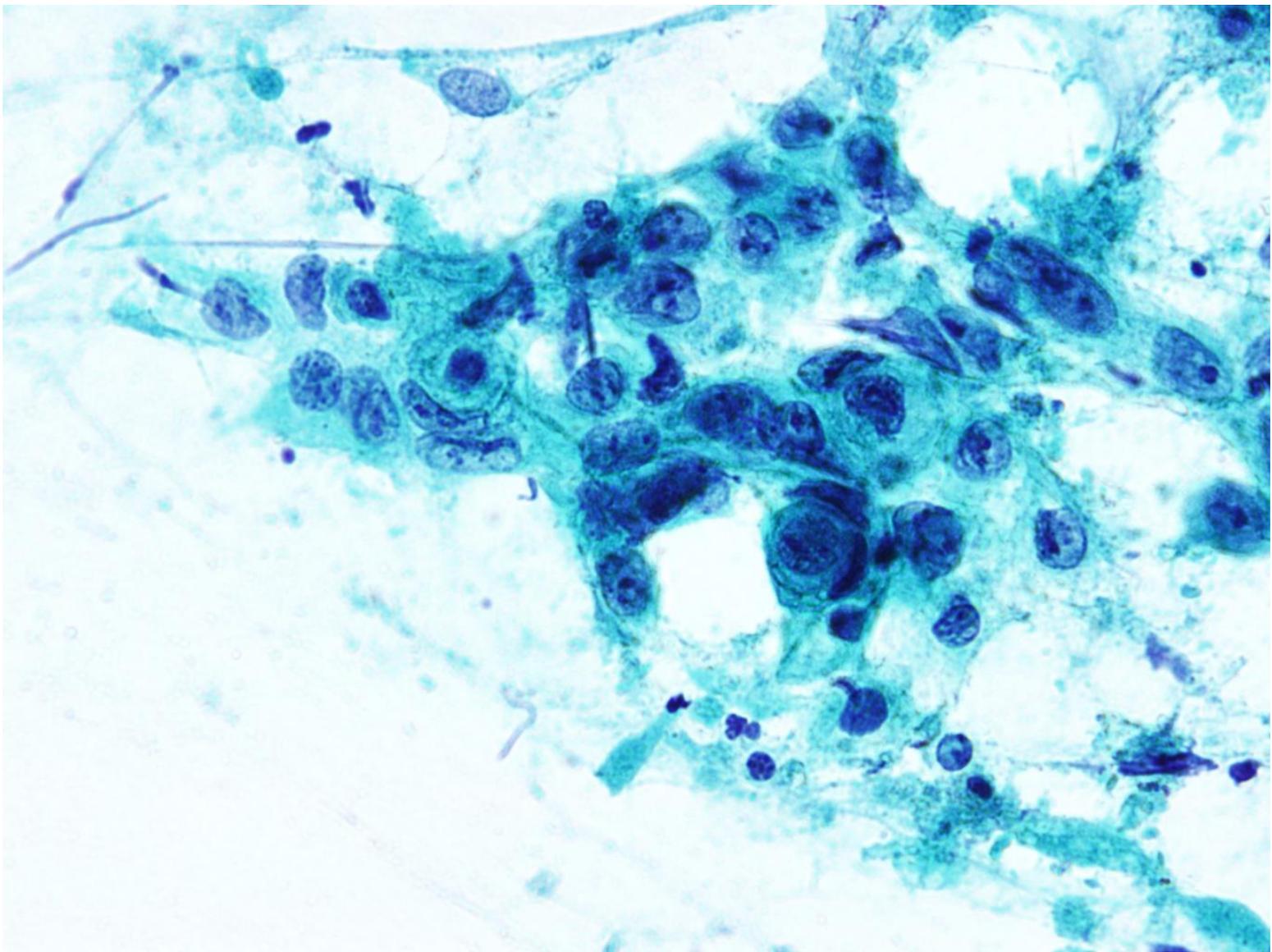
**定型例** ⑭-2 (EBUS-TBNA、扁平上皮癌、一致率100%) : 写真中央部や左下の一部には、相互封入像が認められる。



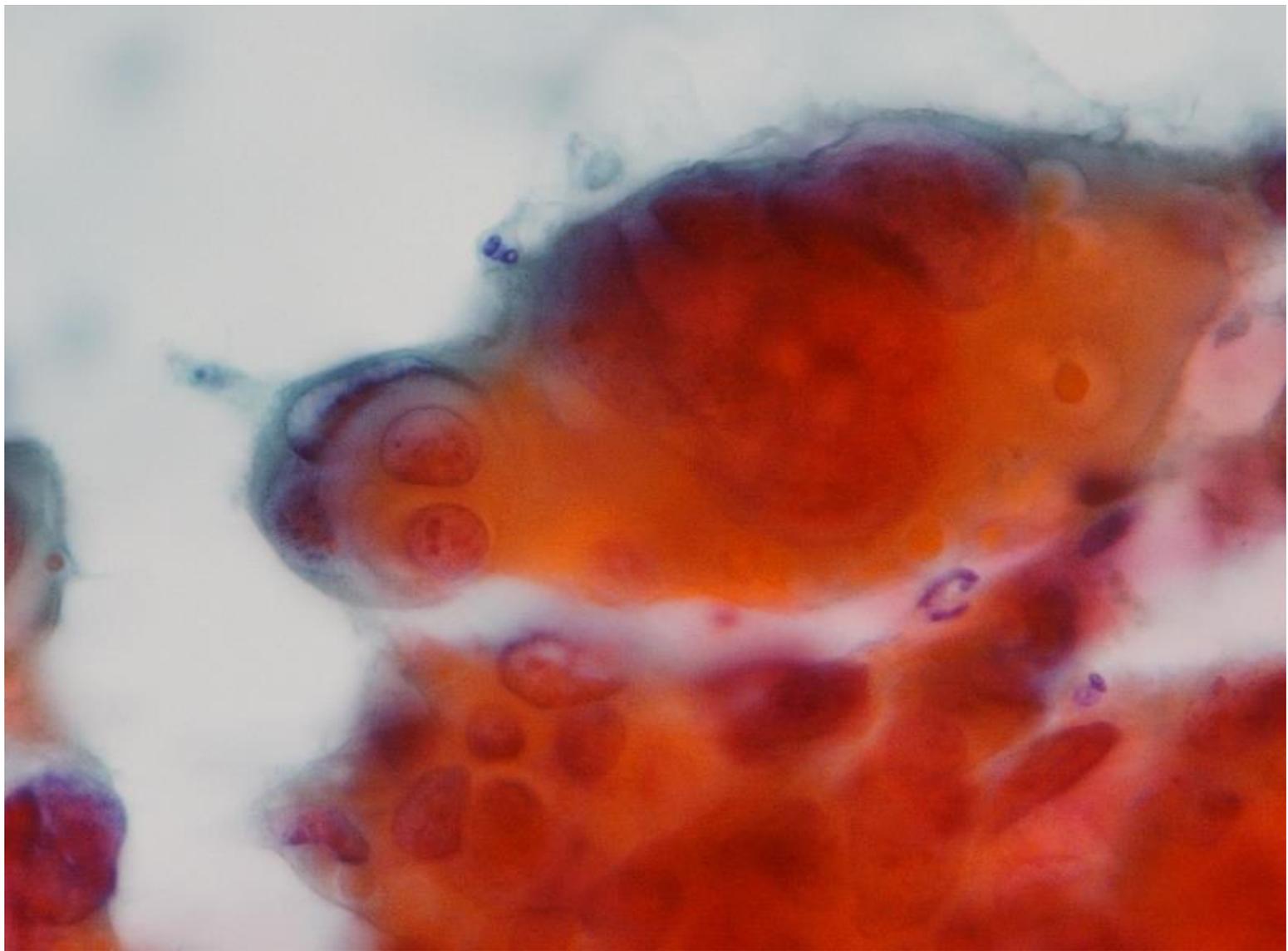
**定型例** ⑭-3(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率80%): 写真中央部付近には、相互封入像が認められる。



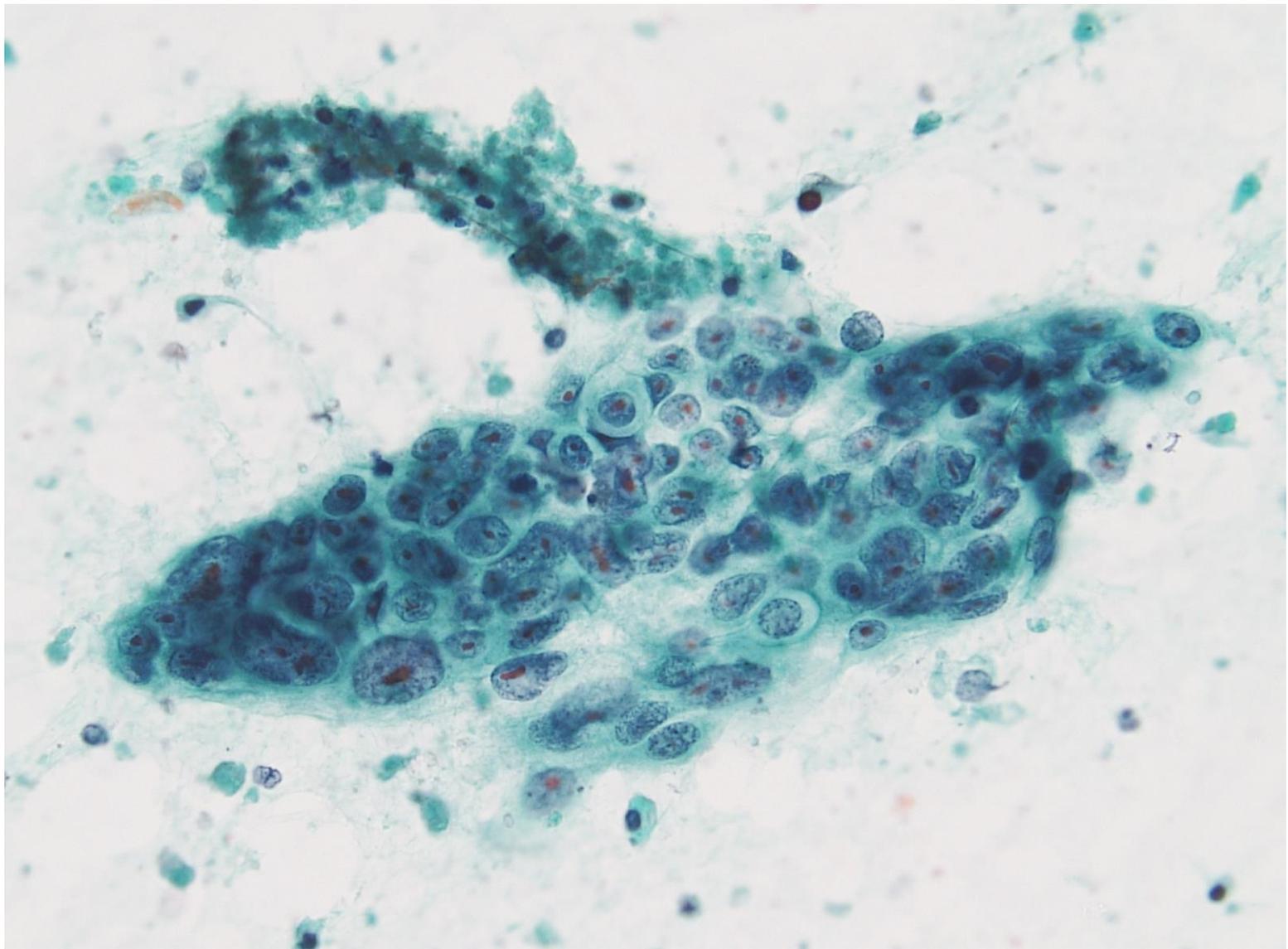
**定型例** ⑭-4 (EBUS-TBNA、扁平上皮癌、用語の一致率90%) : 写真右上には、組織でいう癌真珠のようにならずをまいたような構造を示す相互封入像を認める。



**定型例** ⑭-5 (擦過、扁平上皮癌、用語の一致率100%) : 中型細胞集塊内では、相互封入像が認められる。



**定型例** ⑭-6 (擦過、腺癌、用語の一致率100%) : 集塊左側には相互封入像が認められる。腺癌でもまれにみられるので注意が必要である。



⑭-7(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率60%):集塊内では複数か所で、核と核の圧排所見が認められる。一見、相互封入像に見えるが、定型的ではないため意見の分かれた写真である。